



Shimotsuke English Journal (SEJ)

Vol. 61

R2.12.24

今月のキーワード

教材・教具の活用

思考力・判断力・表現力を育てるために

早くも2020年が終わりを迎えようとしています。今年はコロナウイルス感染症対策に伴い、様々な子ども向け英語イベントや、先生方の自主研修である「ゆうがお CAFE」の開催が叶いませんでした。

そのような中でも、新学習指導要領が小学校から順次実施となり、今後ICT機器の導入など学習環境も整えられていく予定です。来年も、子どもたちのよりよい学びに向けた授業づくりに向けて、先生方と情報を共有しながら英語教育を進めていきたいと考えています。

教材・教具を効果的に活用しよう

★ICT機器の活用 ～子ども同士の会話を記録して評価に生かす～ 吉田東小 5年生

南河内中学校区では「コミュニケーション能力の育成（英語科を中心として）」を小中一貫教育のテーマとして設定していますが、今年度から、小学校高学年で学期に1回程度パフォーマンステストを実施しています。パフォーマンステストを実施するまでには、いつまでにどのような力を身に付けさせたいかという教師の願いを明確にし、計画的に指導を積み重ねていくことが重要です。

Where do you want to go?



<3人一組で会話を録画している場面>



<クラス全体で共有する場面>

先月要請訪問でお伺いした吉田東小学校では、単元終盤における一単位時間で、子ども同士の会話を映像に残し、自身の振り返りを行ったり、録画した会話をクラス全体で共有したりしていました。また、映像に残すことで、先生自身の「記録に残す評価」（「話すこと」【思考・判断・表現】）にもつなげていました。

来年度、一人一台タブレットの導入も予定されています。授業における活用について、試行しながら可能性を広げていく必要があると感じました。

★辞書の活用 ～辞書に親しみ、英語の文字に慣れる～ 国分寺小 6年生

国分寺小学校6年生のクラスでは、授業の最初に、単語に慣れ親しむという目的で、ALTの言うアルファベットを聞いて、辞書から文字を探す活動（Dictionary Challenge）を行っていました。

辞書はアルファベット順に並んでいること、1文字目から順番に単語を探していけばよいことなどを、子どもたちは自然に学習していたようでした。

1時間の授業を通して、手元に辞書を置いておくことで、他の活動を行う際にも、分からない単語は自分で調べる習慣が身に付いていたのが印象的でした。



ALT says

“7 letters!

E-X-C-I-T-I-N-G”

思考力・判断力・表現力等を育てるために



12月21日(月)、東京家政大学の太田洋教授を講師としてお迎えし、薬師寺小学校にて小・中学校英語研修を開催しました。コロナウイルス感染症拡大防止のため、参加人数を制限させていただきましたが、授業参観及び授業研究会を予定通り実施することができました。



○ Lesson7 I'd like pizza. (薬師寺小 5年2組)

本時のめあて：注文を受けたり伝えたりして、オリジナルピザをつくろう (6/7時間目)

評価規準：家族へのオリジナルピザを作るために、丁寧な表現で注文したり注文を受けたりすることについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて考えや気持ちなどを伝え合っている。

【思考・判断・表現】

○ 授業の流れ Small Talk → 活動1 → 中間の振り返り → 活動2 → 発表



What would you like?

中間の振り返り場面では、子どもたちの疑問をクラス全体で共有しました。

「3つ欲しいと言われたけれど、2つしかない時にはどう言えばいいのかな？」

「(具材の位置を) ちょっと右にずらしてほしいときには何と言うの？」 「売り切れ!と言いたいときは・・・」



○ 研究協議及び講話より

- ・【思考・判断・表現】を評価するためには「コミュニケーション活動の目的」(本時であれば「家族へのオリジナルピザを作るために」)が重要であること。目的を達成するために、どのような英語を使えばよいか(思考・判断)し、コミュニケーションを図っているか(表現)を見取る。
- ・中間の振り返りでは、「子どもの疑問を引き出すこと」ができ、大変効果的であった。また「良い例を共有すること」も一つの方法として考えられる。その際、言葉と内容に着目することが大切。

言葉に着目した発問例：うまく使えた言葉は？こんな表現を使いたかったと思うことはある？

内容に着目した発問例：家族のためのピザはうまくできた？喜んでもらえそう？



- ・【知識・技能】は、「この言語材料を使いなさい」と示さなくても、使うことができることが学習指導要領には示されている。黒板に言語材料を示さなくてはならない場合は、「まだ(子どもたちが)できる状況には至っていない」と現状を見取り、指導に生かしていくことが大切。
- ・【主体的に取り組む態度】を評価するには、「粘り強く取り組んでいるかどうか」や「自分の中でPDCAを意識して取り組んでいるか(自己調整)」という側面がある。
- ・評価をすることが目的にならないよう留意する。指導に生かすために見取っていくことが大切。複数の単元を通して評価することもある。

特に Small Talk の場面では、子どもたちが、担任の先生と ALT とのやり取りに熱心に聞き入る姿が印象的でした。

